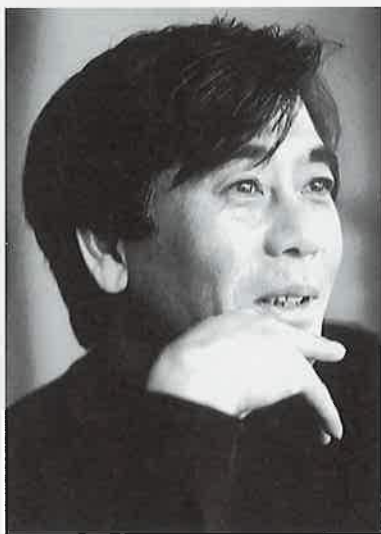




人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第20回



黒木安馬

元国際線航空会社乗務員・作家

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て日本航空に入社。国際線乗務員として業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させた。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輪、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎るちあ」を主宰。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博している。昨年一杯で航空を退職して(株)日本成功学会を設立、代表取締役社長として活躍中。著書に「面白くなくちゃ人生じゃない!」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail: kuroki-yasuma@love.biglobe.ne.jp

「げにうるわしき青春の、はかなくも過ぎ行くものを、いざ楽しまん時よ今、明日の日の定めなきを」と、ルネッサンスを築いたフィレンツェの君主ロレンツォ・メディチが「バックス賛歌」で詠った。明日があると思うな、現在の一瞬を大事に謳歌しよう、と。では、一回こっきりの人生で、時が流れる中での幸せの定義とは何であろうか。心理学者ユングは、五個あると、こう言い切る。

まず「健康」であること。それも身体より心の健康がより重要であると。気が心身を左右することは自明の理である。昔のリスクは若死にだったのが、昨今では心の不健康な長生きといわれる。次に「パートナー」を挙げる。人という漢字は支え合って活けると書く。誰も相槌を打ってくれない無人島で独りでは生きていけない。一生のうちで真実の朋を一人でも探し当てることすら難しい。仲の良い夫婦であったはずが、そのうち離婚したとはよく聞く話である。一生はたった一人のパートナー探しと言っても過言ではない。そして「感動する心」。夕陽や花を見て素直に美しいと感じ入ることが無

くなつたらもう終わりだろう。愛情の反対は憎悪ではなく、無関心である。他の動物には無い素晴らしい世界だ。三万年前のネアンデルタール人も埋葬者に花を添えていた。次の「朝起きた時にやることがあること」は切実な問題だろう。ますます高齢化社会になって、何もすることが無い朝が毎日続けば世の中はどうなることか。定年退職した人たちが見まぢがえるほど急に老け込むことは多い。何もしてはいけないという刑罰が一番苦痛だそうである。独房がよい例だ。最後に「ほどほどのお金」となる。お金で幸せを買うことは出来ないが、何がしかのお金があれば不幸せになることを防ぐことは出来る。勘違いしてはいけないのは、お金はあくまでも手段であって、目的ではないということ。一万円札を燃やしても丸太棒に火はつかないが、そこいら辺に捨ててある新聞紙は役に立つ。何事にも深く感謝感動するという素直な心を持てば、必ずや思いやりの深い利己的でない人間になる。成功した人々がいつも本当に腰が低いのもその為である。一期一会とはまさにそのことである。